

水素ハイブリッドトラック

国内初の 走行試験

室蘭、登別で15日から



コープさつぽろが協力

東京都市大学が開発した水素ハイブリッド(HV)エンジン4トトラックが15、24日、室蘭、登別市内で国内初の実証走行試験を行う。生活協同組合コープさつぽろ(本部札幌、大見英明理事長)の宅配サービス車両として使用。同大、室蘭工業大学、室蘭市の連携による水素普及啓発活動の一環で、西胆振管内を走行試験中の水素エンジンバスとともに初冬の本道での走行性能を検証する。(山田晃司)

水素ハイブリッドエンジントラックは水素電気モーターを補助にエンジンと電気モーターを併用している。東京都大は、水素エンジン車のネックだった馬力の小ささを改善するため、空気とガスを高圧でシリンダーに注入する方式で燃焼効率

を向上させ、発進時に電気モーターを補助に使うことで127馬力を実現。これは従来のハイブリッドディーゼルトラックの9割に相当する。大きさは全長6・2メートル、高さ2・9メートル、重量3・5トン。試験は15、19、22、23日の7日間、室蘭、登別市内の一部、約140軒の宅配サービスに使用し、水素エネルギーをPRする。水素は室蘭市港北町の北海道エア・ウォーター道南カンパニー室蘭支店に置かれた仮設水素ステーションで充てんする。

室蘭市企画財政部企画課の関川純人主幹は「塔」役に努める。

国内初の実証走行試験を室蘭、登別で行う水素ハイブリッドエンジントラック
で、運転席と荷台の間に水素タンクを4個装備。4日に東京都市大が東京で報道陣に初公開した。
12日に室蘭に到着。室工大と連携したカーボンフットプリントやエコ店舗建設などエコ活動に熱心なコープさつぽろが走行試験に協力。15、19日、22、23日7日間、室蘭、登別市内の一部、約140軒の宅配サービスに使用し、水素エネルギーをPRする。水素は室蘭市港北町の北海道エア・ウォーター道南カンパニー室蘭支店に置かれた仮設水素ステーションで充てんする。

「国内初の水素トラック走行試験は息子民連携の大きな成果です。環境産業拠点都市形成を目指す本市をアピールする好機」と語る。コープさつぽろ宅配事業本部吉小牧・函館地区の福島博地区長は「エコを推進している立場から室工大の事業に賛同し、協力させていた」と水素エネルギーの「走る広告塔」役に努める。